

～ 共防連防除暦会議開催 ～



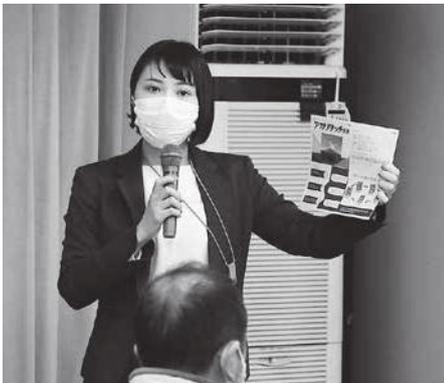
1月15日、本所にてJA相馬村共同防除組合連絡協議会が防除暦編成会議を行い、各共防長や役員等20人が訪れた。

初めに三上由紀夫会長が「昨年はフラン病の多発やダニの発生、日焼け果等の病害虫や障害に苦勞されたと思います。しかし黒星病については皆様の適期散布により発生を抑えることが出来ました。令和3年産も引き続き適期散布を徹底し、農作業事故には十分に注意して高品質りんごの生産に向けて取り組みましょう。」と挨拶した。

次に農業振興課から令和2年産に問題になった病害虫を振り返り、3年産の新しい防除体制が説明された。

同時に3年産から新剤が導入されたこと、6月中旬から15日以内の散布間隔とした事等が伝えられ、新剤について各関係メーカーから詳しく説明された。

参加した会員は、資料に目を通しながら変更点に注視し聞き入っていた。



今回導入された薬剤についての説明をするメーカー担当者ら



変更点の詳細について



殺菌剤の新規採用

去年までは殺菌剤として開花直前にオルフィンF、落花直後にユニックス顆粒とジマンダイセンを散布していたが、3年産からは開花直前にカナメF、落花直後にミギワ20Fとチオノックを基本として採用した。

理由として、前年使用していた剤よりも黒星病に対する防除価が高く、カナメFとミギワ20F共に治療効果も期待できる。

但し、以前使用していたインダー

等のEBU剤程の治療効果は期待できない為、予防散布を徹底して頂きたい。

また、ミギワ20Fは黒点病の登録がない為、チオノックと混用が必要になる。

昨年褐斑病が発生し、今年も褐斑病が心配される場合はミギワ20Fよりも防除価が高いとされるパレード15Fを選択する。

また、流通量不足が原因で防除剤に採用されなかったデランフロアブルは供給体制が整った為、「落果10日後」に再び採用した。

令和2年用防除計画

開花直前	オルフィンF 又は パレード15F
落花直後	ユニックス顆粒 ジマンダイセン



令和3年用防除計画

開花直前	カナメF 又は パレード15F
落花直後	ミギワ20F チオノック

去年問題になった病害虫に対応した薬剤の選択

今年の防除計画は、6月上旬からフラン病や輪紋病等に重点を置いた対策の薬剤が導入されている。

これらの病害は去年管内で発生が多く確認され、3年産も発生が懸念される為、適した薬剤の散布をして頂きたい。

また、7月下旬の殺虫剤として、収穫前日まで使用できるオリオン水和剤40を極早生品種に対応する為採用した。

ダニ剤に関しては、今まで使っていた基幹剤の抵抗性の発達が懸念される為、抵抗性が発達しにくいアカリタッチ乳剤を採用した。

この剤は、ハダニ類の気門をふさぎ窒息死させる作用の為、多くの散布量が必要となる。また、卵には効果が無く、1週間後頃には再度予察が必要になる。

薬剤散布の基本は忘れずに

今年から展葉1週間後頃から落花20日頃までは10日間隔で散布し、その後は6月中旬、7月上旬に合わせて15日以内での散布する体制としている。

黒星病に対する新しく導入した殺菌剤の散布は治療効果があり、防除価が高まったものを導入しているが、散布後に展葉した部分は効果が無い為、今まで同様雨前散布を徹底する必要がある。

生態が早まる可能性も考えられる為、落花40日後の特別散布も視野に入れておく。

また、去年もダニの発生が多く見られ、今年も越冬したダニの密度が高いため、予察を忘れずに行う事をお願いしたい。去年の初発を確認したのが5月末日であるため、そのころから予察の意識をもって作業を行って頂きたい。

今年も作業安全に高品質りんご生産に向けて、適期散布を心がけ、JAと一緒に取り組みましょう。